



ざんぐり



京都SKY大学
同窓研修会会誌
第111号



奈良県 三輪明神・大神神社 新春バス研修旅行



一 目 次

バス研修旅行	新春「恵方」詣りバス旅行記	亀山みさこ(2)(3)
ミニ講座	「ようこそ動物園へ」に参加して.....	吉村辰江(4)
共催講演会	「京都の凸凹を歩く～高低差に隠された古都の秘密」を聞いて.....	西台 惇(5)
共催講演会	「地域連携がつなぐ未来」を聞いて.....	井上昌幸(6)
地域活動	「伏見港・酒蔵を巡る地域活動」に参加して.....	亀山みさ子(7)
歩こう会	第48回目標歩数歩こう会の結果報告	(8)
投稿	「アースデイ」(その3)「時間」.....	木村高志(9)
投稿	～Eい! groupの学友と共に学ぶ～	野口博之(10)(11)
投稿	スコットランドへのお誘い (その2).....	小島哲三(12)(13)
事務局だより	令和5年度 通常総会・講演会のお知らせ 他	(14)

発行 / 京都SKY大学同窓研修会
編集 / ざんぐり編集委員会

バス研修旅行 2023年1月19日

新春「恵方」詣りバス旅行記

亀山 みさ子

すべての参加者40人が、定刻前に集合されたので、バスは予定通り8時30分に出発しました。朝は少し寒かったけれど、好天に恵まれてのスタートでした。会長さんの挨拶、幹事さんの説明を聞きながら、第二京阪、近畿道とバスは順調に進んで、東大阪のあたりで、ちょっとした渋滞にひっかかったものの、最初の目的地の三輪明神・大神神社（みわみょうじん・おおみわじんじゃ）へは10時15分ごろにつきました。



三輪明神・大神神社 二の鳥居

二の鳥居前でバスを降り、松や杉、ヒノキなどの大樹の茂る参道を心静かに歩いて、神社の御神体の三輪山を拝んで、御祈禱を受ける参集殿に入りました。30分以上の待ち時間があり、ご祈禱希望者が大人数のため予想していたよりも時間がかかりました。巫女さんの奉納の神楽の舞いは優雅で良かったです。大神神社の他の拝観場所に回る時間が少なく、「なでうさぎ」だけを撫でてバスに戻りました。（「なでうさぎ」は、雑踏混雑緩和の



三輪明神・大神神社 階段を上がって拝殿へ

ため動画・写真の撮影はご遠慮下さい、とのこと）時間の都合で、買い物を予定していた三輪そうめんのお店には寄らずに、昼食先の道の駅「針テラス」に直行しました。



道の駅「針テラス」若者のバイクで混雑

「針テラス」での昼食は、暖かいお鍋もついていてありがたかったです。道の駅で買い物時間がたっぷりあり、それぞれがたくさんのお土産を買って、午後1時50分に、次の目的地の敢國（あえくに）神社に向けて出発しました。

敢國神社は、三重県でも有数の歴史ある古社ということで落ち着いた雰囲気がありました。参道のわきには松尾芭蕉の句碑「手



道の駅「針テラス」 とれしゃき市場とレストラン

はなかむ おとさへ梅の にほひかな」もあって、彼が三重県伊賀の出身だったことを思い出しました。参道の手前に案内板があり、伊賀忍者が敵に見つからないように木の上に隠れる術は何かというクイズがあり、「たぬき隠れ」ということを知りました。

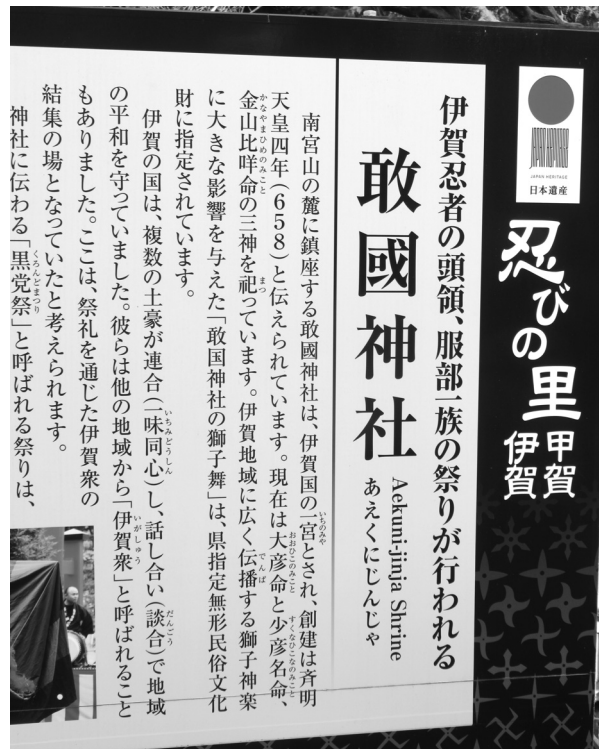
最後の訪問地は三重県の大田酒造です。(G7伊勢志摩サミット2016ワーキングダイナーの乾杯酒に選ばれた) 仕事場は仕込みの最中ということで、酒造りの現場の見学はかないませんでした。ビデオを見せてもらって、丁寧な説明を受けました。日本酒の未来を見つめて、新しい商品の開発に取り組んでおられる話も興味深く聞かせてもらいました。楽しみにしていた利き酒では、大田酒造代表銘柄「半蔵」の4種類を試飲しました。味や香りが、どれも微妙に異なっていて、ワイン感覚で飲めるものもあって、「これはフランス料理にあうのでは」と思ったりしました。ここでもお土産を買って帰路につきました。

バスの中で幹事さんがクイズを準備下さっていて、三重から滋賀、京都のルートで出発点の京都八条口アバンティ前まで戻りました。

到着は予定より少し遅れましたが、有意義で楽しい1日になりました。



敢國神社 本殿前の鳥居



敢國神社 「忍びの里」の案内板



大田酒造「伊賀酒 半蔵」

ミニ講座 2022年11月18日

「ようこそ動物園へ」に参加して

理事 吉村 辰江

日 時：2022年11月18日(金)
午前10時～12時
場 所：京都市動物園 レクチャールーム
講 師：京都市動物園
生き物・学び・研究センター長
理学博士 田中 正之 氏
京都大学野生動物研究

センター特任教授

受講者数：63名



秋晴れの下、京都市動物園の歴史・理念・取り組みについてお話いただきました。

平安京の東に位置するこの一帯は白河と呼ばれ、平安時代末期には栄華をきわめていました。明治時代には一面田畑の広がるこの地で内国博覧会が行われ、その跡地に平安神宮や美術館とともに、明治36年(1903年)に大正天皇のご成婚を記念して、日本で2番目に開園された公設動物園が造られました。(因みに1番は恩賜上野動物園です。)開園にあたって、その費用の4割は京都市民の寄付でまかなわれたということです。岡崎という立地を活かし疎水の水を直接引いて、象などの水浴びや噴水につかわれているそうです。

いのちをつなぎ、いのちが輝く動物園となるために“いのちがやく京都市動物園構想2020”が、令和2年2月に策定され、六つの行動指針が定められています。

その一つが「動物福祉」。「動物福祉」とは、本来の姿を見せられるような環境を守ることです。例えば、ゴリラは親子で暮らせる。象の健康管理のために象の耳からの血液検査



をする。キリンの足元の健康のためヒズメを切る。ライオンは群れて暮らす生態のため、京都市動物園では飼育しない。動物たちの害になることはしない、嫌がることはしない。

もう一つが「種の保存」。野生では絶滅してしまうかもしれない動物を、他の動物園と連携して、飼育し、繁殖させる。また、SDGsの取り組みとしてフードロスの削減。企業で出る不要な野菜くずや規格外の野菜の活用。「大安」で漬物にならない新鮮な野菜をもらい受け、動物の餌とする。豆腐を作る過程で出る新鮮なおからや、里山保全活動で出る枝葉(笹や檜の葉など)もまた、動物の餌とする。象は一日100kgの餌を食べ、50kgの糞をする。その象の糞の堆肥化を進め、その堆肥を園内で利用しています。

最期に京都市動物園の見どころなどをうかがって、各々、秋晴れの動物園へ、新しい視点とワクワク感を持って、散策に出かけていかれました。

今回の講座は同窓研の会員だけではなく、SKYシニア大学の受講生の方々にも参加を呼びかけ、31名の方が応じてくださいました。また、動物の餌代の一部になればと参加者に募金を呼びかけたところ、18,940円の寄付をいただきました。この志はしっかりと動物園に寄付させていただきました。

皆様のご協力ありがとうございました。

共催講演会 2022年11月21日

「京都の凸凹を歩く～高低差に隠された古都の秘密」を聞いて

SKY3B体操金曜クラブ代表 西台 惇

講師：京都高低差崖会崖長・京都ノートルダム女子大学非常勤講師

梅林 秀行 氏

1. はじめに

講師の先生の紹介は人気番組「ブラタモリ」の案内役を幾度も務められた方というのが一番でしょう。

講演の内容は、配布された年表のタイトルにある「豊臣秀吉の京都改造」がぴったりの言葉でした。

2. 秀吉以前の京都

数多くの公家、門跡、神社などが、個々に土地と住民を支配していて、それを寄せ集めた都市でした。

また平安京の区画は整然としていましたが、公家も下人も混ざり合い住み付いている「貴賤混住」の雑然とした都市でした。

3. 秀吉の京都改造構想**(1) 支配の一元化：**

山城検地、亀岡検地、洛中検地を通じて支配の確立

(2) 城下町：

聚楽第の周辺に大名屋敷、内裏の周辺に公家屋敷、町民の住居までを大きく囲む御土居

(3) 都市の活性化：

天正の地割と突抜の配置、南部の開発

4. 京都改造施策**(1) 検地：**

検地奉行職を任命しました。面積単位を統一し、竿、縄を使って厳重に測量をしたうえで年貢を決める等級を付けました。明智の領地であった亀岡検地をして京都の公家、門跡の領地を亀岡へ移しました。このようにして京都での秀吉支配の一元化を達成しました。

(2) 聚楽第と新内裏：

本能寺の変の4年後に居城聚楽第の着工をしています。諸国の大名へ在京命令を出しました。周辺の町人を追い出し、ここに大名屋敷を集中配置

して「武家町」を作りました。内裏の造営をしてその周辺に公家屋敷を移しました。ここが「内裏・公家町」です。

(3) 区画整理事業：

平安京の区画は120mの碁盤目です。貴族や官吏の住居でしたが中央部分が利用されていません。天正地割と呼ばれている区画整理は碁盤目の中央に突抜の道を通して長方形区画とする改造です。丸太町以南五条、七条辺りまで施工し、土地の有効利用と南部の開発を目的としました。

(4) 御土居：

かつての惣構（そうがまえ）は城、或は城と武家屋敷を囲む堀と土塁の防壁でした。御土居は全長23kmもあり、街全部を大きく取り囲んでいます。また御土居には成長が早く、お金になる竹を植え、竹奉行に管理させました。京都は秀吉が守る、「平和」をもたらすとの意思を誇示したかったのかもしれない。京都とは御土居の内側、洛中のことです。このようにして城下町京都が出来上がりました。

5. 聴講で得た秀吉像

- ・ 武人というより政治家：構想が大きく、また将来を読んでいます。
- ・ 行動が速い：本能寺の変の3年後、まだ関白の任官を受ける前に山城検地を実行しています。関白任官の翌年には居城聚楽第の築城にかかり翌年に完成。洛中検地で町人の身分を作り、天正の地割に見る区画整理、御土居の築造開始と矢継ぎ早に、かつ強引に京都改造を実行しています。
- ・ 誇り高い京都人からは嫌われた：「突抜け」を調べてみて、突抜けの分割道路を屋敷の中にいきなり通されるのに反感が強かったと思いました。市内に10か所も突抜町があります。天使様と崇めた神社を真っ二つに割られた恨みの町名、天使突抜町（下京区東中筋通り松原以南）はその最たるものでしょう。
- ・ 古代の集落から都市への転換を図った功績者

共催講演会 2023年1月30日

「地域連携がつなぐ未来」を聞いて

会長 井上 昌幸

京都市内を離れた宇治市槇島町（最寄駅は近鉄・向島駅）、京都文教大学の多目的ホール・同唱館で開催された、京都文教大学学長 森正美先生の講演会「地域連携がつなぐ未来」を聴講した。

最初に、「連携とは？」の説明があった。立場、役割、持っているものなどが違う人や団体が、協力して何らかの課題解決にむけて取り組むこと。多角的な視点で、互いを認め合いながら、得意を生かすこと。大学には教員、学生、卒業生、組織、施設などの連携に必要な資産が揃っている。

続いて、連携の重要性が増した背景の説明があった。人口減少、高齢者人口・割合増加、少子化。出生率の低下により子どもの数が減り、平均寿命の伸びが原因で、高齢者の割合が高まっている。将来の生産年齢人口不足、労働力不足につながる。

非婚率が益々増加して、家族の「ソロ化」が進んでいる。人々のつながりが希薄になって、無縁社会、孤独死、孤立死、在宅ひとり死が増えている。20～50代の孤独孤立死も増加している。多様化する家族の形や制度に価値観が追いついてなく、家族依存の支え合いからの脱却が必要である。

日本の健康寿命は世界一で、どんどん伸びているが、高齢者は働く場はなく、社会的な活動もしていない。では何をしているか？定年退職を機に日がなテレビを見て過ごしている。「生きがい」を感じていない高齢者が

多く、近所とのつきあいがほとんどなく、困ったときに頼れる人もいない。

日本は経済水準の割に不幸せな国で、幸福の重要な要素である「つながり」の評価が低い。特に「人生評価／主観満足度」が非常に低いのが、国際的にみた日本の評価結果である。

ライフスタイル、人生設計、働き方、結婚観、男女の役割などのさらなる変化の波が押し寄せている。自治会活動などのコミュニティ活動が停滞して、近所との付き合いが希薄になっており、「つながり」を増す活動が重要になっている。特に高齢者の参加が望まれる。

最後に、先生が若い世代の学生たちと取り組んでおられる、向島や宇治橋通商店街などでの地域連携例の紹介があった。時間がなくて、ほんのさわりだけになってしまったのが残念である。講演を聞いて、京都SKYセンターの目指す、「高齢者やシニアの方々の生活と健康・生きがいづくり」活動が益々重要になることを実感した。



地域活動 2022年11月25日

「伏見港・酒蔵を巡る地域活動」に参加して

亀山 みさ子

京阪中書島駅南改札口前に集合したメンバーは17名。いつもよりは少なめの参加者数ではありましたが、雲一つない好天気恵まれて、10時に駅前を出発。

ごみはおもったよりも少なく、ゆっくり伏見港公園を抜けて、三栖閘門資料館に立ち寄り、閘門のつくりを説明してもらいました。その後、閘門の上から濠川と宇治川の水面の高低差を確認して、Y形の3点をつなぐ伏見であい橋、この橋は、映画「君の隣を食べたい」の撮影場所でもあります。伏見であい橋を通り、濠川沿いをごみを拾いながら歩きました。川沿いは地元の方々が植えられた水仙の群落や、まっ赤なピラカンサの実、皇帝ダリヤなどに色どられ、木々の紅葉とあいまってすばらしい景色でした。

濠川を行き交う観光用の十石舟に手を振っていると、落ち葉を集めて川沿いの掃除をしておられた人が「わしらは、あの船の航行に

反対ですねん。観光は大切かもしれんけど、舟を通すためにする浚渫のせいで、昔はいっぱいいた魚や貝がほぼ全滅や。」と嘆いておられました。人の生業と自然保護の両立の難しさを感じさせられた言葉でした。

角倉了以の碑や竜馬・おりょうの像の前では、それぞれの歴史の一端に触れることができました。京都で唯一、弁財天を本尊とする長建寺に参詣して、ウクライナに平和がはやくもどる事をお願いしました。境内の大きな公孫樹がみごとに色付いて、幹の周りにはまるで黄金色の絨毯を敷いたようでした。黄色い花が咲くという黄桜の木もありました。

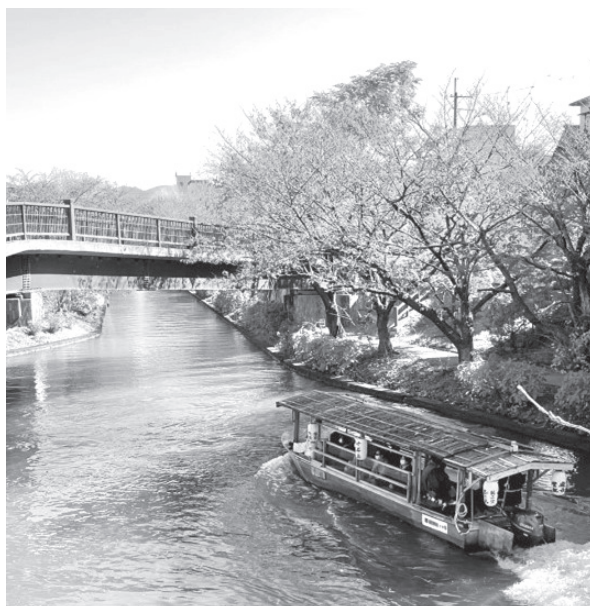


十石舟の乗船場からは濠川とおわかれして月桂冠大倉記念館を経て伏見の町なかを通り、キザクラカッパントリーへ。

先に、向かいにある黄桜記念館を見学しましたが、建物の中はお酒の匂いが漂っていました。展示してあるパネルに、黄桜の花の写真があって、長建寺の庭にあった木に咲く花が本当に黄色いことが、わかりました。

見学の後、カッパントリーの中庭に戻り、2時間弱の地域活動を終了しました。貴重な体験ができました。

次回はコロナも落ち着いて、多くの方々と一緒に参加できるといいなと思いました。



第48回 目標歩数歩こう会の結果報告

2022年10月～11月の2ヵ月間に亘り「目標歩数歩こう会」を実施し致しました。16名の方より貴重な実績報告をいただきました。皆様ありがとうございました。

目標歩数歩を決めて毎日少しでも歩くことで健康を維持し健康寿命を延ばすのが目標です。

目標を決めて歩こう会に参加することで自ずと効果が出ています。

次回は4月～5月です。皆様の更なる健康とご参加を期待しています。



順位	氏名	合計歩数	1日平均歩数	目標歩数	達成率
1	小田 和昭	1,223,609	20,059	15,000	134%
2	赤塚 信雄	1,185,946	19,441	15,000	130%
3	五十嵐将三	1,119,654	18,355	15,000	122%
4	吉野 忠光	805,901	13,211	8,000	165%
5	内藤 彰	664,299	10,890	10,000	109%
6	堀井 信一	651,944	10,687	10,000	107%
7	藪内 豊造	648,126	10,625	10,000	106%
8	木下 明美	620,546	10,178	8,500	120%
9	亀山みさ子	604,789	9,915	9,000	110%
10	木村 高志	598,200	9,800	10,000	98%
11	清水 将由	558,812	9,160	7,000	131%
12	井上 昌幸	534,300	8,760	8,000	110%
13	近藤 輝雄	427,671	7,010	5,000	140%
14	関矢 幸子	404,458	6,630	6,000	111%
15	堀 正子	289,382	4,743	4,000	119%
16	中曾 偉人	286,628	4,699	5,000	94%
合計		10,624,265	174,163	145,500	120%

(敬称略)

(健康福祉担当理事 木村 小林 中曾)

投稿

アースデイ (その3) 「時間」

副会長 木村 高志

時間は地球上の全てのものが平等に持っている歩みです。動物、植物、地球すら自然の摂理によって進んでいます。人は同じ時間でも長いと感じる者もいれば短いという者もいます。

短距離走の花形百メートル走、国際陸上連盟が初めて公認した世界記録は1912年の10秒6。2009年の世界選手権では9秒58をマークした。人間は自力で百年かって1秒02短縮した。

18世紀後半イギリスで起こった産業革命前、人々は時間を気にせずあくせくして生活をしてこなかった。第1次産業革命は石炭エネルギーという動力の獲得により軽工業が発展し、第2次では石油エネルギーへと革新が起こり、まだ主に人間が機械を制御している重工業が発展した。第3次革命ではコンピューターを中心として情報通信産業が拡大し、コンピューター処理速度は爆発的に性能を向上させた。ただソフトウェアはゲームのオセロに勝つぐらいで、囲碁・将棋などには到底勝つことなど出来なかった。今第4次産業革命は全てのものがインターネットでつながり、携帯電話のビックデータや様々な情報が人工知能で人間の百万倍の速さで分析され、今まで想像すら出来なかった商品やサービスが世の中に登場している。囲碁・将棋はプロでもAIソフトには勝てない。ビックデータ情報をコンピューターのハードウェア、ソフトウェアが処理した結果が人の判断になり

替わろうとしています。

時間は1日24時間。人の能力はゼロからゆっくり成長します。人は老化しますが、技術は更に進歩を続けます。団塊の世代が生きた50年は時間が余りにも早く廻った。地球が数十億年に渡り築いた天然資源を、科学技術による工業的進化を通じて使い果たそうとしている。「宇宙船地球号」人類だけが100億人に迫り、絶滅させた種は数知れない。目に見える危機が迫っている、痴呆症になって人生100年生きる事を考えるより、子や孫に安心して生きることが出来る地球にするためには、時間が残り少なくなっている。今シニア層が健康で豊かに生きている間に、2030年までに「SDGs (持続可能な開発目標) 17」の目標達成に取り組みましょう。



投稿

～Eい！groupの学友と共に学ぶ～

京都SKYシニア大学 スマホマイスターコース 野口 博之

令和4年度新設のスマホマイスターコースを選んだのは、無限の可能性を持つスマホで何ができるのか、私が何をしたいのかを見つけるためでした。このコースには、一人一人の目的は違っても、学びの同志がいたことが幸せでした。新たな出会いが、今ではかけがえのない面々となりました。前世にどんなご縁があったのか、偶然か必然かわかりませんが、結論は、いいグループ=Eい！groupでした。E班8名の学友と1年間共に楽しく学び合えた4話を紹介します。

まずは、講師の大西先生からの学び紹介。巧みな話術と豊富な知識に感心しました。特にGoogleレンズ機能では、風景や建物の画像



(i) だけでその場所が特定できたり、有名人の着る衣装のメーカーや値段も判明できたりした時は驚きました。スマホ内部のシステム関係についても教えていただきました。そのような時は、集中して聞いても頭がボーとしてきて、聞き漏らすことの方が多かったです。

わからなくなった時はそのたび毎にお隣の学友に聞きました。優しく受け応えをしてもらい助かりました。また、講座での学びを共有し合うこともありました。LINEの投票・日程調整機能の使い方の時には、私の送信画面と学友の受信画面を瞬時に見比べ確認することができました。間違っても送信しても「ごめん」で許してもらえる気安さ、年が離れた人生の先輩であっても失礼を顧みず学びを前提にした学友関係だからと親しく会話もできました。時には別講座のYouTube作品交流もあり、グループLINEが作品を通した学びの場となりました。作品に個性が見られた時には、新鮮さと人柄の面白さにクスッと笑ってしまいました。

第2話は、フェスタ2022の「スマホ何でも相談会」の思い出。私たちは素人集団のE班であり、そのためプロを真似た付け焼き刃の対応ではダメ。相談会は悩みを聞くというスタンスで、「求められることは相談にのること



であり、解決できなくてもよい。取次役であっても十分だ」と。当日は10時オープン。まあそんなこんなで、E班のみんなと協力し、講座を運営する有限会社アシストワンの皆様方からのサポートも受けながら、少しでも解決できたら相談者も笑顔になって万々歳。相談に乗るちからを思いだしながら、まあなんとかなるさという感じで臨みました。相談B会場の来客者は、わずかに8人程でしたが、相談員として応対メンバー3～4名でそれぞれの個性と得意分野を發揮し、相談事も解消して満足げに帰られたのでよかったです。



第3話は、オンライン新年会体験。講座では、Wi-Fiを一度に多人数でアクセスしたので何度も止まってしまいストレスを感じました。会場が初めての場合はあり得るトラブル。実施して会場のキャパが分かることもあります。私が印象に残ったのは、スクリーンに映



る見応えのあるマスク姿の大西先生でした。

その日の夜21時から、班長の声かけで「**オンラインE班新年会実戦編**」を自主的に実施。開始時にありがちな機種・設定トラブルもなく快適な環境で、乾杯を皮切りに語り合えました。この経験は、他の時にも応用が効く事にもなりました。会話でのマナーを守る大切さ、日常のLINEトーク交流の中で培った信頼関係があったからこそ成功したのだと思います。

第4話は、質問に対し回答を快く真摯に返信してくれた学友にも感謝します。質問が更に自分のスキルを高めるのだと言う。質問は自分も回答者も集団も活性化させます。これからも悩み多きどうするシニア？検索語Q『機種名と質問事項』では見つけれず、「正解は、♪あなたのこれからの人生♪」(RADWIMPS正解18FES ver.)のアドバイスがくるかもしれません。スマホ術での学びが今後の生き方をも示唆してくれた1年間でした。

最後になりましたが、大西先生をはじめスタッフの皆様、休んだ学生に対してや復習のためにと、振り返り用動画も毎回アップロードしていただき、手厚いアフターにすごく感謝しています。加えて、京都SKYシニア大学の理事・担当者の皆様のご尽力に感謝します。ありがとうございました。

(i) の建物画像……わち山野草の森

投稿

スコットランドへのお誘い(その2) 最北の街サーソーでの暮らし

理事 小島 哲三

イギリスの最北端、北海に面したスコットランドの街サーソー(THURSO)では、京都とは環境や生活スタイルに様々な違いがあります。

○サーソーには季節が無い

気温は年間で一番高いのは8月で最高が17度、最低が10度ほど、一番低いのは1月で最高が6度、最低が1度ほど、夏の気温が京都の3月、11月に近く、冬の気温はほぼ同じです。すなわちサーソーの季節は京都の11月から3月の間を1年間に伸ばしたようで、ほぼ1年中冬という事になります。

気温は1年を通して低くて、季節の変化をあまり感じません。景色の中に季節を感じる自然の木や花々がほとんど見られず、年中風景が変わらないのです。ホテルでは1年中暖房があって、服装はずっと冬服でよく、衣替えの必要はありません。



サーソーの街角
珍しくポットの花がおかれている

唯一、日の長さが季節で大きく変わります。6月頃は日の出が4時半、日の入りが10時頃、12月は日の出が9時、日の入りが4時頃で随分差があります。12月は本当に日が短く寂しく感じます。

○交通、市街地を出ると制限速度96km

市内の公共交通機関が無いので、車が必要です。こちらの自動車の変速機はマニュアルが基本です。エアコンの冷房は無く暖房のみです(年中冬だから)。方向指示器のレバーは左でワイパーは右と日本と逆になります。うっかりすると左折、右折の時にウインカーのつもりで右側にあるレバーを操作し、ワイパーを動かしてしまいます。

道路(日本の一級国道相当)の最高速度は時速60マイル(96km)、他の道路や市街は時速30マイル(48km)が標準です。サーソーの街にA9とい



サーソー郊外の道路
まわりをさえぎるものがありません

う道路が通っていて時速60マイル(96km)で走れます。日本では高速道路でも時速80kmの規制が多いので驚きですが実際に走っても危なくは感じません。

これらの制限速度を含めて、こちらには道路標識はほとんどありません。日本ではいたるところに、速度制限、駐停車禁止、徐行、一旦停止、…などありますが、なくてもトラブルは無いようです。

一方こちらの歩行者は、赤信号でも車が来なければ横断します。これは特別ではなく、たいていの人が普通にしてています。滞在中、私も習って危険で無ければ赤信号でも渡るようになりました。またこちらの人は雨が降っても傘は使わず、ずぶ濡れでも気にならないようです。雨の中で傘をさすのは日本人など、よそ者だけのようです。

○街なみ、落ち着いて統一されたデザインの家

街の中は歴史のありそうな様式の家が中心で、周辺には比較的新しく建てられたとみられる、日差しを取り込むように大きなガラス窓のある家が並んでいます。家の形態は区域ごとで一体感があります。家の中の造りで日本と違うのは、出入り口を入るとそのまま部屋となっていて、玄関となる場所は無いようです。食堂と台所は壁で仕切られ、食事や食器を出し入れする小窓があります。



左 街中の民家
伝統的なデザインでそろっています

街の周辺部の民家 右
新しいデザインが多い



日本で多いLDK一体の間取りには作られて無いようです。

家の周囲にはエアコンの室外機、洗濯物干しその他建物本体以外は一切なくてすっきりしています。

○食事、ホテルがメインですが

滞在中はホテル住まいでしたから、朝食はホテル、昼、夜も外食かテイクアウト利用です。

ホテルでの朝食を紹介しましょう。飲み物は紅茶かコーヒーがポットで提供され、パンはサンドイッチ用くらいの薄くてカリカリに焼いたトーストが出ます。おかずは様々、フライドエッグ（目玉焼き）、コールドハム（肉の味が自然でおいしい）、ハドック（鱈の薫製をボイル）、キッパー（鯨の薫製をボイル）、ウインナー（中身はかなり柔らかい）、ハギス（羊の内臓、穀物、香辛料等からなり当地の伝統食）、マシユルーム、トマトのペーク、等これらから選んで注文します。残念ながら写真はありません。



ホテルのバー
酒を楽しみながらメニューを見てオーダー

夕食をホテルでとる場合はコースが基本です。まずバーに案内されて、好みのドリンク（アルコール）を飲みつつ、メニューを眺めてお好みの一品を選びます。

ディナーの基本はスターター（前菜）、メイン、スイーツ（デザート）の三つです。注文するときにチップス（ポテトチップス）、ポテト（ボイルしたジャガイモ）と聞かれるのでどちらか指定します。

こちらの食事、はじめは珍しさもあって色々食べましたが、長くいるとだんだん退屈して、ときどきはスーパーで適当に買ってホテルでいただきました。右上の写真はある時の夕食です。

スーパーで並ぶ商品の特徴は、肉類はすべてブロック、また調理済みの缶詰の種類が多く、酒類の中心はワインが占め、たくさん並んでいます。

○お世話になったご家族

現地で合弁会社の設立準備の段階からお世話になったご家族がサーソーにお住いでした。奥様が和歌山出身の日本の方で、私の滞在中も食事に招いて



左 スターター ムール貝の料理
下 メイン料理
中央ビーフステーキ
左はポテト
右はボイル野菜



上
最初に滞在した街中のホテル
「ペントランドホテル」
左
2回目に滞在した郊外のホテル
「フォースハウスホテル」

いただき、ある時は鯖寿司、巻寿司や焼いた塩鯉の入った弁当などを届けていただきました。こちらの食事に退屈していた時にいただいた寿司の美味しさはいつまでも忘れることはないでしょう。

下の写真は、お礼にご家族をホテルのディナーに招いた時のものです（食後）。後方、右の2人はホテルのスタッフです。



○サーソーはスコットランドの小さな街

原野に囲まれた小規模な都会といった雰囲気、イギリスの最北端にありますが寂しさや侘しさはありませんでした。ある時はオーロラをながめた時が有りました（ラッキー）

次は休日に車で訪ねた街やお城その他名所をご案内させていただきます。

（一部の写真はグーグルマップから転載）



事務局だより

行事予定

令和5年度 通常総会・講演会

日 時：令和5年4月21日(金)
 午後1時30分～
 場 所：ハートピア京都 3階 大会議室
 講演会 講師：鶴飼秀徳先生
 (ジャーナリスト・僧侶)
 演題：「明治期・京都の明暗
 ～廃仏毀釈後の近代化に迫る～」
 (詳細は別紙を参照して下さい)

春のウォーキング

開催日：令和5年3月30日(木)
 場 所：伏見方面
 (詳細は別紙を参照して下さい)

春の地域活動

開催日：令和5年4月24日(月)
 場 所：船岡山公園～今宮神社
 (詳細は別紙を参照して下さい)

春のバス研修旅行

開催日：令和5年5月19日(金)
 行 先：大阪府・堺方面
 (詳細は別紙を参照して下さい)

ミニ講座 春の草花巡り(その2)

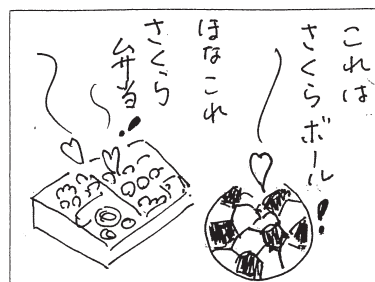
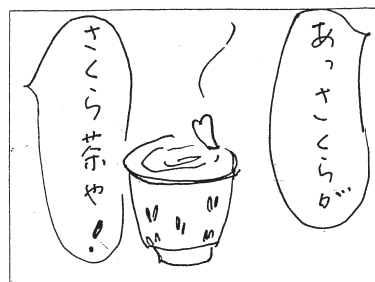
開催日：令和5年5月26日(金)
 場 所：京都府立植物園
 (詳細は別紙を参照して下さい)

京都見聞・こぼれ話

第7号「寺社仏閣の墓股とは」をお届けします。



ひねもす のたりのたり



監事
 米澤 可矢作

2015年5月号(第82号)に連載開始の「ひねもすのたりのたり」は今回の30回目で休載させていただきます。
 【米澤可矢さんへ】長い間、ほのぼのと楽しい雰囲気を提供していただき、有難うございました。「のたり」ファンを代表して、厚くお礼申し上げます。(編集委員会)

同窓研修会 継続入会のお願い

2023年度(令和5年度)も継続して同窓研修会に入会していただきます様、お願い申し上げます。



次号「ざんぐり」(112号)の予定

発行日：2023年6月15日(木)
 「ざんぐり」は同窓研修会会員の機関誌です。自由にどしどし投稿して下さい。